

建交労中国地協青年部ニュース



中国地協青年部

発行責任者 武田 喜成

学んで遊んで交流しました。

第3回中国地協フェスタを開催しました。



10月20日(土)21日(日)に島根県大田市の国民宿舎さんべ荘にて第3回中国地協フェスタが開催され、参加者は島根県本部から18人、広島県本部から11人、岡山県本部から1人の合計30人が参加しました。

「みんなで力を合わせて仲間づくりを進めよう」のスローガンのもと、中国地協には高齢者・事業団、労職、トラック、ダンプ、鉄道の5つの業種部会がありますが、地域や業種を超えて協力できるようにしていこうと企画されました。

中国地協フェスタは、20日は午後から始まり学習交流会、夕食交流会を行い、21日にレクリエーションで出雲大社に行き、午後には解散というものでした。

学習交流会の1つ目は平和学習、2つ目が各県各支部の発言、最後にグループ討議で行われました。平和学習はDVD「21世紀に残したい語り部シリーズ ヒロシマ」を参加者全員で視聴しました。広島で被爆した新見愛枝さん(去年2月死去)の被爆体験が語られており、原爆が落とされた直後の様子から長年被爆したことで苦しんでいる様子が語られていました。DVDを視聴して「戦後が70年になり、当時のお話ができる方も少なくなっていく中で、これは戦争をしない、させない国として続けていくように努力が必要だとすごく感じました。」という感想がありました。

続いて各支部、各業種からの発言では島根県の事業団から2人、労職から1人、岡山県の事業団から1人、広島の実業団から1人、トラックから1人、ダンプから1人、友の会から1人の計8人がそれぞれの支部の取り組み、悩みなど発言をしました。



最後に3つのグループに分かれて1時間のグループ討議が行われ、自己紹介や仕事の事、組合の取り組み等話し合いが行われました。参加者からは「初めての参加で何も知らずに来たので、皆さんの話を聞いて労働組合というものがあり方や、活動を具体的に知ることができ、良い経験になりました。」というものもありました。

またグループ討議は発言が非常に多く、みんながしゃべりたい、そんな様子で行われていました。

夜は夕食交流会が行われ、食事の合間に自己紹介したり、ビンゴやカラオケをしたり交流も行われました。

出雲大社で「縁結び」のご祈禱を

21日(日)のレクレーションは出雲大社に参りました。10月は一般的には神無月と言いますが、島根県では神在月と言われています。日本中の神様が出雲大社に集まり、一年間の会議を行うことからこのように言われているそうです。

出雲大社では、天気にも恵まれ参拝日和の中、境内などを散策しました。最後に全員で神楽殿に集まり、「縁結び」のご祈禱をしてい



ただきました。計画段階では組織拡大も神頼みかと笑いもありましたが、昨日のグループ討議の中で広島の廣木さんが「組合には人との縁がとても大切だ」と言われていたことを思い出しました。



二日間にわたり開催された中国地協フェスタは終わりました。「次回こそすべての県が参加して開催しましょう」という意見がありました。